

第3次晴れの国おかやま生き生きプラン素案の概要

第1章 基本的な考え方

1 県政の基本目標	すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現
2 プランの性格等	<p>長期構想と行動計画という2つの性格を併せ持つもの</p> <p>長期構想 高齢者人口がピークを迎え、その後はすべての世代で人口減少が想定される2040年頃を展望した目指すべき岡山の将来像を描く。</p> <p>行動計画 長期構想の実現に向けて重点的に取り組む戦略や施策を盛り込んだ計画</p> <p>【重点戦略】 I 教育県岡山の復活 II 地域を支える産業の振興 III 安心して豊かさが実感できる地域の創造</p> <p>【計画期間】 令和3(2021)年度から令和6(2024)年度までの4年間</p>
3 プラン推進の基本姿勢	立案に係る新たな手法やデジタル技術の活用などを進め、参画、連携・協働を基調として、時代の要請に的確に対応できる柔軟で活力ある県政運営を行う。

1

第2章 長期構想(岡山の将来像)

1 2040年頃を見据えた変化と課題

本格的な人口減少・長寿社会の到来

- ・ 2040年の推計人口は168万人
- ・ 高齢者人口は58.7万人のピーク など

世界的な潮流

- ・ ポストコロナの「新たな日常」をデジタル化を原動力として構築
- ・ 未来技術の活用による課題解決や地域の魅力向上 など

教育県岡山の復活

- ・ 年少人口の減少による学校の小規模化、教育の地域間格差
- ・ AIによる職業代替、人間ならではの感性や創造性の発揮 など

地域を支える産業の振興

- ・ 生産年齢人口の減少、労働供給間口の拡大・生産性向上
- ・ 生産拠点の国内回帰の動き、旺盛な海外需要の取り込み など

安心して豊かさが実感できる地域の創造

- ・ 人口減少による生活の利便性や地域の魅力の低下、新型コロナウイルス感染症を契機とした変化を生かした持続可能な地域の形成
- ・ 感染症対策や、災害時の自助・共助の重要性の高まり
- ・ 合計特殊出生率向上への早急な対応 など

2 岡山の個性と優位性

本県のさらなる発展を図るため、岡山の個性やこれまで築き上げてきた優位性(拠点性、気候、自然、地震、教育、産業、観光、農林水産物、医療、福祉、文化・スポーツ)について整理する。

2

3 2040年頃の目指すべき岡山の姿

本県の人口ビジョン※を見据えながら、概ね20年後である2040年頃の目指すべき岡山の姿を示す。

※目指すべき将来の方向を達成することにより、2060年に151万人程度確保、長期的には135万人程度で安定的に推移

<p>教育県岡山の復活</p> <ul style="list-style-type: none"> 未来の創り手となる子どもたちが、未来社会を自立的に生きる資質・能力を身に付けている。 学力に加え、豊かな心を持ち、健康で気力の充実した子どもたち、グローバルな視点を持って地域に貢献する志を持った子どもたちが育っている。 <p>など</p>	<p>地域を支える産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の立地先として選ばれ続け、魅力ある雇用が創出されている。 自己変革している中小企業では、グローバル競争で優位な技術力・生産性を誇っている。 多様な働き方が当たり前となり、多様な人材の活躍が、人手不足の緩和や企業業績の改善等につながっている。 <p>など</p>	<p>安心で豊かさが実感できる地域の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康寿命が延伸し、より長く健康に働く人などが増えている。 夫婦が望めば、第2子、第3子を持ちやすい環境を実現している。 ソフトとハードを組み合わせた災害に強い岡山を実現している。 地域の担い手の活躍や、生活ニーズを満たす空間の形成などが進み、住みたい、住み続けたいと思える地域を形成している。 <p>など</p>
---	--	---

4 地域別構想

<p>備前地域 活力あふれ、明るく笑顔で暮らせる備前地域</p>	<p>備中地域 夢と元気にあふれ、安全・安心で暮らしやすい備中地域</p>	<p>美作地域 魅力と活力にあふれ、安心で生き生きと暮らせる美作地域</p>
---	--	---

3

第3章 行動計画

【行動計画の構成】

※重点施策は、「生き活き指標」により達成度を示すことができる施策

重点戦略	戦略プログラム	生き活き指標	重点施策	推進施策
I 教育県岡山の復活	① 学ぶ力育成プログラム	5	3	5
	② 徳育・体育推進プログラム	7	7	3
	③ グローバル人材育成プログラム	3	2	2
II 地域を支える産業の振興	① 企業誘致・投資促進プログラム	6	6	2
	② 企業の「稼ぐ力」強化プログラム	6	5	2
	③ 観光振興プログラム	6	4	3
	④ 儲かる農林水産業加速化プログラム	4	5	5
	⑤ 働く人応援プログラム	6	5	2
III 安心で豊かさが実感できる地域の創造	① 保健・医療・福祉充実プログラム	9	7	4
	② 結婚・妊娠・出産応援プログラム	4	3	5
	③ 子育て支援充実プログラム	3	3	4
	④ 防災対策強化プログラム	7	5	6
	⑤ 暮らしの安全推進プログラム	3	3	5
	⑥ 持続可能な中山間地域等形成プログラム	8	7	4
	⑦ 快適な環境保全プログラム	4	4	8
	⑧ 生きがい・元気づくり支援プログラム	4	3	8
	⑨ 情報発信力強化プログラム	4	4	4
合計	17	89 【うち新規52】	76	72
			148	

4

重点戦略Ⅰ 教育県岡山の復活

1 学ぶ力育成プログラム

課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
年少人口の減少による学校の小規模化の進行や、創造性等が必要な業務が仕事の中心になることが想定される中、夢や目標の実現に向け学ぶ意欲を高め、自己実現を図るために必要となる学力を確実に育成する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 小学校6年生 65.9% → 70.0% 中学校3年生 44.1% → 50.0% ○ 全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差【新】 小学校6年生 ▲1ポイント → 1ポイント 中学校3年生 0ポイント → 1ポイント ○ インターンシップや企業訪問等を体験した高校生の割合【新】 95.3% → 100.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャリア教育の推進 ■ 子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり ■ 教師の授業力の向上

2 徳育・体育推進プログラム

課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
不登校の出現割合等が増加し、小学生を中心に体力・運動能力が低下傾向にある中、安心して学校に通うことのできる環境を整え、子どもの学習を保障し、また、社会の一員として活躍できるよう、若年期から精神面、身体面の充実を図ることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中・高等学校における不登校の出現割合(児童生徒1千人当たり)の全国平均との差【新】 +0.6人 → ±0.0人 ○ 「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合 小学校6年生 44.7% → 50.0% 中学校3年生 36.5% → 50.0% ○ 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合【新】 (男子) 小学校5年生 70.7% → 75.0%等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 不登校を生まない学校づくりの推進 ■ 道徳教育を中心とした規範意識の確立 ■ 子どもたちの体力の向上

5

3 グローバル人材育成プログラム

課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
グローバル化の進展やSociety 5.0の到来が想定される中、郷土等を大切にすることをもち、豊かな語学力等を有するとともに、膨大な情報から、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値や行動を生み出すことのできる人材を育成することが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内大学等及び高校からの海外留学生数【新】 大学等 1,379人/年 → 1,380人/年 高 校 623人/年 → 630人/年 ○ インターネットを介して海外の学校や大学等と直接交流をしている県立高校の数【新】 7校 → 52校 ○ 全国規模の理数・情報・政策提案等のコンテストへの県立高校生の参加者数【新】 611人/年 → 730人/年 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際的に活躍できる人材の育成 ■ Society5.0に向けた人材の育成

6

重点戦略Ⅱ 地域を支える産業の振興

1 企業誘致・投資促進プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
新型コロナウイルス感染症の影響により、企業の投資マインドの変化が予想される中、企業ニーズに応じたきめ細かい支援や、引き合いの多い県南内陸部等の産業用地の確保を進めるとともに、感染症に起因する生産拠点の国内回帰などの動向も把握する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規立地企業等の投資額【新】 850億円/年 → 2,800億円(4年間累計) ○ 新規立地企業等の雇用創出数 500人/年 → 2,000人(4年間累計) ○ 新規立地企業等の敷地面積【新】 23.4ha/年 → 80.0ha(4年間累計) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 戦略的誘致施策の推進 ■ 企業ニーズに応じた産業用地の確保 ■ 県内への国内拠点設置の促進

2 企業の「稼ぐ力」強化プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
生産年齢人口の減少や国内市場の縮小、経営者の高齢化等が懸念される中、中小企業・小規模事業者には、生産性向上や販路開拓、EVシフト等への適切な対応や、円滑な事業承継への取組が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 従業員1人当たり売上高(生産性向上指標)【新】 28,254千円 → 28,600千円 ○ 企業と大学との共同研究センターにおける産学連携等に向けたマッチング支援件数【新】 26件/年 → 100件(4年間累計) ○ 県内大学工学系学生の県内就職率【新】 30.2% → 32.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業の持続的な成長・発展支援 ■ Society5.0の時代に対応するイノベーションの推進 ■ 企業を支える産業人材の育成・確保

7

3 観光振興プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
新型コロナウイルス感染症を契機として、観光は大きな変革期を迎える中、感染症収束後の観光消費額の回復に向け、認知度を一層向上させるとともに、滞在期間延長につながる取組を進める必要がある。また、海外旅行再開に合わせた時機を捉えた対応が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光消費額 1,737億円/年 → 1,750億円/年 ○ 外国人延べ宿泊者数【新】 486,600人/年 → 486,600人/年 ○ 岡山桃太郎空港の国際線利用者数 26万人/年 → 26万人/年 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 滞在型観光の推進 ■ 国・地域の特性を踏まえたインバウンド戦略の展開と航空ネットワークの拡充

4 儲かる農林水産業加速化プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
人口減少による国内市場の縮小や生産活動の低下、貿易自由化の影響も懸念される中、優れた人材や高い技術力などの優位性を生かしながら、農林漁業者が自立した経営を通じて所得増大を図り、将来にわたり成長し続ける、魅力ある産業とする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林水産業産出額 1,533億円/年 → 1,655億円/年 ○ 県産農産物の首都圏販売金額及び輸出金額【新】 首都圏販売金額 28億円/年 → 33億円/年 輸出金額 8億円/年 → 11億円/年 ○ 桃、ぶどうの栽培面積【新】 1,882ha → 1,905ha 	<ul style="list-style-type: none"> ■ マーケティングの強化とブランディングの推進 ■ 海外でのブランド確立による輸出拡大 ■ 桃、ぶどうの供給力の強化 ■ 次代を担う力強い担い手の確保・育成 ■ 生産性の高い農業の推進

8

5 働く人応援プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
新型コロナウイルス感染症の感染拡大が働く場所や働き方を大きく変えていく可能性がある中、本県の経済を維持・発展させていくためには、人材の還流と定着、多様で柔軟な働きやすい環境づくりに取り組む必要があり、感染症を契機とした働き方の変化等を定着・加速させながら、働く人を応援していく必要がある。	○ 県内大学新卒者の県内就職率 44.4% → 48.0% ○ 本県出身の県外大学新卒者のUターン就職率【新】 37.1% → 39.0% ○ 県内大学留学生の県内就職率【新】 10.1% → 12.0%	■ 若者の県内定着を進める就職支援 ■ 県内企業の発展を担う人材の還流・定着の支援 ■ 外国人材の活躍支援

9

重点戦略Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造

1 保健・医療・福祉充実プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
寿命延伸による疾病構造の変化、未知の感染症の大流行等が想定される中、質の高い保健・医療・福祉サービスを地域において切れ目なく提供するための体制を確立するとともに、未知の感染症の大流行に備える必要がある。	○ 県内の医師不足地域の医療機関に勤務する地域卒業医師数【新】 10人 → 23人 ○ 成人の喫煙率 14.0% → 12.7% ○ 感染症に関する訓練・研修会への参加人数【新】 1,041人/年 → 5,000人(4年間累計)	■ 地域医療を支える医療従事者の確保・育成 ■ 心と体の健康づくりの推進 ■ 感染症対策の推進

2 結婚・妊娠・出産応援プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
出生数の減少に歯止めがかからない中、県民意識調査では、結婚しない理由として「適当な相手に出会わないため」が最も多いことなどが示されており、出会い、結婚、妊娠・出産へのさらなる支援に総合的に取り組む必要がある。	○ 合計特殊出生率 1.47 → 1.52 ○ おかやま出会い・結婚サポートセンターが関わった成婚数 189組 → 500組 ○ 妊娠・出産について満足している母親の割合 83.9% → 85.0%	■ 社会全体で結婚、妊娠・出産を応援する気運の醸成 ■ 若い世代の結婚の希望をかなえる環境の整備 ■ 切れ目ない母子保健等の推進

10

3 子育て支援充実プログラム		
課題等	主な生き生き指標	主な重点施策
保育士不足が慢性化し、女性就労の進展等により、保育サービスの需要は減少しない可能性がある中、核家族化の進行など、子どもや子育てを取り巻く環境において、子育てに対する不安や負担感、孤立感を解消し安心して子どもを育てることができるようにする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後児童クラブ実施箇所数 618箇所 → 705箇所 ○ 保育士・保育所支援センターが関わった保育所等への就職者数【新】 158人 → 520人 ○ おかやま子育て応援宣言企業のうち、従業員の仕事と家庭の両立支援に積極的な「アドバンス企業」認定数【新】 17社 → 150社 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域ぐるみの子育て支援 ■ 乳幼児期における教育・保育の充実 ■ 社会全体で子育てを応援する気運の醸成

4 防災対策強化プログラム		
課題等	主な生き生き指標	主な重点施策
平成30年7月豪雨災害を経験し、県民の自助・共助の重要性が再認識される中、南海トラフ地震や頻発化・激甚化する風水害等に備え、地域防災力の充実強化を図るとともに、発災後には、多様な主体と連携しながら、早期の復旧・復興を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハザードマップの確認を行っている県民の割合【新】 29.2% → 40.0% ○ 自主防災組織率 87.2% → 93.0% ○ 県内外の被災地に派遣できる「チームおかやま」の数【新】 8チーム → 16チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自らの命は自らが守る取組の促進 ■ 互いに助け合う地域の防災力の充実強化 ■ 県民の命を守る災害対応力の充実強化

11

5 暮らしの安全推進プログラム		
課題等	主な生き生き指標	主な重点施策
特殊詐欺の悪質・巧妙化、高齢者人口の増加、地域ぐるみの見守り活動の担い手不足など、治安を取り巻く状況が変化する中、県民一人ひとりの防犯意識の向上や、新たな犯罪への対応等を通じて、治安の改善を着実に進める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 刑法犯認知件数 9,436件/年 → 9,000件/年 ○ 殺人、強盗等の重要犯罪検挙率 93.9% → 100.0% ○ 人身交通事故件数 4,690件/年 → 3,300件/年 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 犯罪抑止対策の推進 ■ 捜査の高度化・科学化等の推進による犯罪の徹底検挙 ■ 交通事故防止対策の推進

6 持続可能な中山間地域等形成プログラム		
課題等	主な生き生き指標	主な重点施策
生活サービス産業や公共交通の撤退などがさらに進行するおそれがあり、集落機能の維持などを図るとともに、新型コロナウイルス感染症を契機として働き方の変化などが進む中、地方移住への気運の高まりやデジタル技術の活用拡大も踏まえ、県外から人を呼び込む取組を強化する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会増減数(外国人を含む)【新】 転出超過(▲2,600人) → 転入超過 ○ 集落生活圏を維持するための小さな拠点の形成数【新】 36箇所 → 45箇所 ○ 移住相談件数【新】 2,430件/年 → 2,500件/年 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生き生き拠点(小さな拠点)の形成促進 ■ 集落機能の維持・強化 ■ 多様な主体の活躍による持続可能な中山間地域等の形成促進 ■ 移住・定住の促進

12

7 快適な環境保全プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
脱炭素社会の実現や海ごみ問題の対応などが求められる中、温室効果ガス削減に向けたさらなる取組、循環型社会形成の推進、環境基準の達成による安全な生活環境の確保など、あらゆる主体との連携により環境保全を進めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 微小粒子状物質(PM2.5)の環境基準達成率 55.7% → 85.0% ○ 少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えの割合及び面積【新】 ・割合 96.6% → 100.0% ・面積 140ha/年 → 720ha(4年間累計) ○ 電気自動車等の普及台数 5,797台 → 8,600台 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水、大気、土壌などの保全対策の推進 ■ 花粉の飛散の低減に向けた取組の加速 ■ 温室効果ガスの削減に向けた取組等の推進

8 生きがい・元気づくり支援プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
長い人生を豊かに生きていくため、スポーツや文化活動を楽しむ人が増えてくることが想定される中、文化やスポーツに親しみ、実践することができるような環境づくりを進めることにより、地域の一体感や活力を醸成する地域づくりに取り組む必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数【新】 176件 → 190件 ○ 成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合 37.7% → 55.0% ○ 国民体育大会における男女総合成績(天皇杯)順位【新】 12位 → 10位台 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化とスポーツの力を活用した地域の活性化 ■ 生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりの推進 ■ トップアスリートの育成・強化等の推進

13

9 情報発信力強化プログラム		
課題等	主な生き活き指標	主な重点施策
SNS等を通じて、誰もが気軽に情報発信を行える状況もあり、世の中に情報が溢れており、多くの情報の中にあっても、本県の魅力がしっかりと受け手に届く情報発信を行うとともに、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えて海外への魅力発信を強化する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国における本県の魅力度【新】 全国33位 → 全国20位 ○ 県制作のPR動画の再生回数【新】 国内向け 23万回/年 → 100万回/年 海外向け 25万回/年 → 100万回/年 ○ 県公式SNSのフォロワー等の数【新】 76,515人 → 140,000人 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 強みを生かしたイメージアップ戦略の推進 ■ 首都圏アンテナショップを拠点とした岡山の魅力発信 ■ 海外に向けた魅力発信の強化 ■ SNS等による魅力発信の推進

【今後のスケジュール】

令和2(2020)年11月13日～12月12日	パブリックコメントの実施
令和3(2021)年1月	パブリックコメント結果及び修正案の公表
2月	議案提出
3月	策定

14